

アンケートを活用した導入



付箋を使ってグループで考える

タブレットを活用した学びを深める話し合い



1 指導講評

【①アンケートを活用した導入について】

- 生徒一人一人がアンケートの結果から日頃の生活について想起することができて、授業の導入が、ねらいとする価値への導入となっていた。
- 個々の結果について、生徒一人一人の顔が浮かぶようだったので、生徒と教師、生徒同士の良好な関係を知ることができた。
- 結果を画面上に映し出したが、機器の操作で不安定なところもあり、紙面掲示等で時間を節約できたのではないかと。画面に映す場合のメリットデメリットを整理しておくとうい。

【②多面的・多角的に考えるための発問の工夫について】

- 数学の問いと同じで、発問の連続性によってねらいとする価値に対する理解が深まる。
- 「してあげる」と「したい」の違いについては、よく考えていた。問題は、このことを生かして主題である「本当の思いやり」についての考えを深めていくことである。
- 主人公「彩香」は悪い子だったのか？という問い返しはとても効果的であった。そうではないという生徒の発言を上手に使う、主人公の思いやりに対する心の変化を浮き彫りにできたらさらによかったのではないかと。
- 母親の「今ならわかるかな？」といった会話文に着目させ、どうして今なら何がわかるのだろうか？と問いかけると、これまでの「彩香」の思いやりのとらえ方と気づき始めた思いやりのとらえ方が明らかになったのではないかと。

【③付箋・タブレットを使った話し合い活動について】

- 生徒それぞれにとっても素晴らしい意見や考え方がたくさん出ていた。その意見をさらに深めて磨いていく気持ちで話し合いを深めていくことも道徳科授業の醍醐味である。
- プリントに沿って記入していく方法は時間との闘いでもある。付箋に書く、写真を撮ることも時間がかかる。時間に対する指示が必要になってくるので、授業を俯瞰し、メリハリをつけた授業設定を考えていきたい。

【④その他】

- 自分なりにねらいとする価値（納得解）についてや授業のおよその展開を考えておくことが大切である。

